

# 「誰一人取り残さない」社会を創る

「SDGs」17項目の課題をすべて達成する住宅創りが進められている。  
それが「UN17 VILLAGE」である。

## 持続可能な ライフスタイルを創る

「誰一人取り残さない」社会を創る。  
持続可能で、多様性を考えた包括的に  
考える社会だ。この未来像こそ「SDG  
s」の課題達成「2030アジェンダ」  
の目標なのである。しかし、SDGs17  
項目すべてを取り組むことは困難だとい  
われている。

果たしてどうなのか？

コペンハーゲン南部、約3万5000  
㎡の土地に400戸、約800人が住め  
る住宅を建設するプロジェクト「UN17  
VILLAGE」が2019年発足した。  
「住宅を見直し、不動産・建設業界にお  
けるサステナビリティへの全体的なアプ  
ローチの出発点を作ろうとしています。  
UN17 VILLAGEは、DNGBやDELL  
などの認証を取得し、社会、環境、経済  
の持続可能性において最高基準を満たす  
と共に、持続可能な開発目標をすべて取  
り入れた初めての大型建設プロジェクト  
です」

UN17 VILLAGE責任者グーティ  
ン・シュルツ・ニールセン氏は話す。

社会的・環境的・経済的な持続可能性  
の面でも高い水準に達しているこのプロ  
ジェクトは、さらに気候変動への影響を  
軽減し、地球の希少な資源を過剰に使用  
せずに人々が繁栄するための住宅建設を  
目的としている。

2024年完成予定のUN17 VILLAGEは、5棟の建物に516戸の住宅、  
そして1100人の住民で構成される予  
定だ。





Photo : Thorbjørn Hansen



「このプロジェクトがベースとする『UN17』方式は、相反する幾つかの利益のバランスを取ります。そして温室効果ガスの排出を削減するという野心的な目標を掲げています。同時に入居者の健康と幸福を増進するという野心的な目標も掲げています」

サブライヤーと新しいタイプの建築材料や技術のテストを行い、廃棄物を原料にアップサイクルするなど、様々な方法が含まれている。屋根の瓦にアップサイクルされたタイルを、建物の正面外壁にリサイクルされた塗装アルミを、また階段にはリサイクルガラスを混ぜたコンクリートを使用する。そして短い木片を再利用して家の屋根や倉庫を作るなどがある。課題の多かった廃棄物の一部を再活用

すると共に、建物の外装や内装に美的センス溢れるソリューションを提供することを目的としている。

### 精神的、健康的に暮らせる

「UN17 VILLAGE」の手法の背景にある哲学、環境にやさしい、気候にやさしいという要素は、真に持続可能な不動産建築の方程式の一部に過ぎませんが、健康的な生活、コミュニティ、生物多様性を促進する建物である必要があり、電力エネルギーも自給自足する必要があります。同時に重要なのは、平均的な所得の人々が経済的に手の届く範囲であることです」

UN17 VILLAGEは、これらすべてをカバーする。したがって、UN17

## UN17 VILLAGE Martin Schultz Nielsen

マーティン・シュルツ・ニールセン「UN17 VILLAGE」プロジェクト責任者



Martin Schultz Nielsen ■ マーティン・シュルツ・ニールセン  
デンマーク・オーフス大学で企業金融関係の博士号取得。2014～19年、マッキンゼー経営コンサルタントを経て19年NREP社ストラテジー&コーポレートプロジェクト・リーダー、'21年6月NREP社 UN17 VILLAGEの責任者となる。

Photo : Jonas Henriksen

VILLAGEが建設と不動産における経済的、気候的、社会的持続可能性の向上に向けた運動の出発点になることが期待されている。

「UN17 VILLAGEによって、私たちは持続可能な開発目標に基づく未来の持続可能な建築ソリューションを創造し、普及させるためのオープンラボとしての基礎を築いたのです」

UN17 VILLAGEの五つの建物は、それぞれ1階に共有スペースがあり、二つの屋上には温室が設置される共同住宅と集会所の両方になる予定だ。様々なユーザーグループに対応するため、ファミリーホーム、コミュニティホーム、フレキシブルハウジング、コンパクトハウジング、シェアコミュニティが用意される。

また、それぞれの建物にはバリアフリー住宅もあり、社会の多様性を受け入れることを目標にしている。  
屋根には1700㎡のソーラーパネルが設置され、電力のすべてを太陽光発電で賄う計画だ。また、年間100万ℓ以上の雨水を集め、リサイクルやレクリエーションに利用できるように設計されている。屋上には様々な生き物が住めるように庭園を作り、生物多様性にも貢献したいとニールセン氏は考えている。  
自然界の食物連鎖や腐食連鎖を通して、エネルギーや資源が循環する。つまり、廃棄物という考え方はなく、「資源」として取り組み、循環型経済を狙った街づくりなのだ。  
「サステナビリティ戦略は、六つのテ

マに分けられ、それぞれのビジョンが示されています」

①健康。UN17 VILLAGEは、身体的、精神的、社会的な健康の側面を満たす、デンマークで最も健康的な住宅を提供する。

②コミュニティ。UN17 VILLAGEは、地域、地方、そしてグローバルなパートナーシップを構築し、多様なコミュニティのネットワークを促進する近隣地域を開発する。

③マテリアル。UN17 VILLAGEは、循環型経済と資源効率に基づく持続可能な建築資材の選択を率先して行う。

④生物多様性。UN17 VILLAGEは、生物多様性の高い都市環境を創造し、都市の自然を最大限に活用する。

⑤水。雨水を貴重な地域資源として活用し、地域や水質の向上に貢献する。

⑥エネルギー。UN17 VILLAGEは、再生可能なエネルギー源を使用し、生産と運営におけるエネルギー消費量を削減する。

### 理想的な未来都市

世界中から注目されているデンマークの「UN17 VILLAGE」は、果たして日本でも実現可能なのだろうか？

「開発には三つのステップがあります。まず、コペンハーゲンで実際に建築し、数年後には1100人の住民の健康的な生活を促進する質の高い住宅を建設することです。二つ目は、SDGs 17の目標それぞれを活性化させると同時に、社会、環境、経済の持続可能性の最高水準を満たすための青写真となる手法を作るこ

と。そして最後に、このUN17 VILLAGEがムーブメントの火付け役となり、建築環境とそこに住む人々の生活を、より持続可能なアプローチに結びつけることが期待できます」  
当然、他の地域ではその地域の状況、生活様式、人口動態などに合わせてこの方法を適応させなければなりません。さらに技術、材料、そして建設システムがアップグレードされ、新たなものが考案されているため、その手法も改善されなくてはなりません。

「UN17 VILLAGEでは、サステナビリティ全体に焦点を当てた結果、17のSDGs項目に様々な形で対応する200以上のソリューションのカタログが作成されました。これらのソリューションは、投資した資金に対して最も持続可能性を実現できるように優先順位がつけられ、業界内外の誰もが自由にインスピレーションを受けることができるものとなっています」

コペンハーゲンでの一つのプロジェクトがどんなに野心的であっても、世界を変えることはできない、とニールセン氏は指摘する。だからこそ、このメソッドが日本で展開されることをニールセン氏は期待している。  
「UN17 VILLAGE」は単なるエコ建築プロジェクトではなく、住民たち自身が持続可能で豊かなライフスタイルを選択できるものである。

「都市を発展させるのに、環境を犠牲にする必要はない」  
マーティン・シュルツ・ニールセン氏は言葉を強めた。